

コケオニグモ *Araneus seminiger* (L.Koch)

【選定理由】

県内では、もともと採集・観察例の少ない種（希産種）である。さらに、生息に適した環境が少なく、開発等に伴う生息域の縮小、個体数の減少が心配される。

【形態】

体長雌 20～27mm、雄 12～14mm。大型のオニグモで、背甲は黄褐色で後方は赤褐色になる。腹部は緑色でウメノキゴケの色に似る。両肩は隆起し葉状斑とも黒褐色。歩脚は緑色で黒褐色の環斑がある。



北設楽郡設楽町裏谷, 2015年8月7日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

県内では、豊田市（旧稲武町）、北設楽郡設楽町・豊根村に分布する。

国内では、北海道、本州、九州、南西諸島に分布する（新海ほか, 2018）。

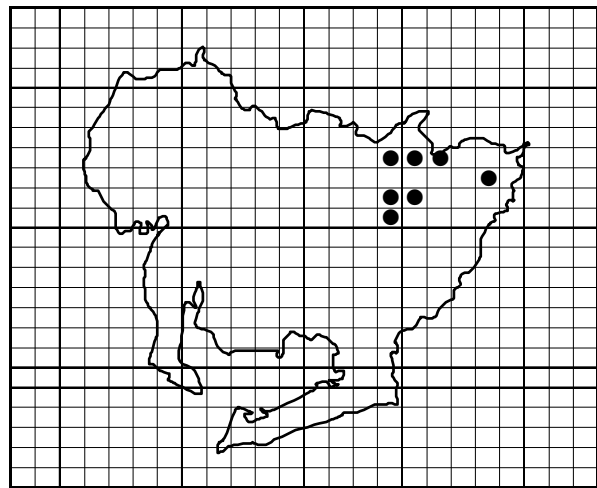
【生息地の環境／生態的特性】

山地に生息し、7月～9月に成体になる。夕方から夜間に枝葉間に円網を張るが、日中は網から離れて、樹幹の表面に静止していることが多い。

【現在の生息状況／減少の要因】

森林に生息しているが、個体数は少ない。全国的に珍しいクモであるが、豊田市や設楽町等から新産地が発見された。また生息地においても記録されない年もあり、個体数や減少率は不明である。

県内分布図



【保全上の留意点】

森林に生息するので、生息地での樹木の伐採は慎むべきである。

【引用文献】

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑, pp.21,94. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2017. 日本のクモ増補改訂版, p.258. 文一総合出版, 東京.
小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, pp.451-452,626. 東海大学出版会, 神奈川.
小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.133,509. 東海大学出版会, 神奈川.

(緒方清人)